



う た は う ラ

さき まがた え ・ さく

Magata
Saki

ラ ー は う た う

さく・え まがた さき



ラーは、まだ うまれたばかりの
あかちゃんクジラ です。

おかあさんクジラに くっついて、
ひろいうみを ゆったり およぐのが だいすきでした。

おかあさんクジラは、ラーに いつも やさしいうたを
うたって くれます。

うみの なかまたちや、 ふしぎな いきものたちは、
そのうたを きいて、 きもちよさそうに ゆれるのでした。

(いつか、わたしも おかあさんの ように うたえるのかなあ)





ラーと おかあさんクジラが、 ゆったり ゆったり およいでいくと、
あおいそらの うつくしい 【あさのくに】 につきました。

とりたちは うつくしいこえで うたい、 たのしそうに とんでいます。
ラーは、 つぶらな めを キラキラ させました。

おかあさんクジラが、 ゆったり、 とりたちに はなしかけました。
「 とても すてきな こえですね。 ところが ウキウキしますわ 」

あおい とりたちも いいました。
「 あなたがたも、 とても うつくしいこえで いらっしゃる。
おや、 うまれたばかりの かわいいクジラさん。
きみは いったい どんなこえを しているのかな？ 」

ラーは はずかしくなって、 おかあさんクジラの からだに かくれんぼ。

ラーと おかあさんクジラが、 また ゆったり およいでいくと
まんげつの かがやく 【よるのくに】 につきました。

おなかが すいてきたので、 ラーは おかあさんクジラの
おちちを のみました。

すると とつぜん、 きいたことのない おおきなうたごえが きこえて
ラーは おちちを ふきだして しまいました。

「 こわがらせたなら、 もうしわけない。

わたしの むすこたちが、 ひとりだちを したところだね。

がんばれ、 がんばれ、 と こえをかけて いたのです。 」

そう はなすこえの めしは、 ちからづよく そして
やさしい こえの おおかみでした。

おなかが いっぱいになった ラーは、 ウトウト しはじめました。



ためしよみ

は
ここまでです